

「軍事スパイ」をつかまえ、国外に追放する

七四〇 エフ・エ・ジェルジンスキーへ*

同志ジェルジンスキー！ 反革命を援助している作家や教授たちを外国に追放する問題について。

これは細心に準備しなければならない。準備がなければ、われわれはばかなまねをすることになるだろう。そのような準備措置を討議するようにお願いします。

モスクワでメッシング、マンツェフ、さらに二、三のものをいれた会議を招集すること。

政治局員に週二、三時間をさいて、一連の出版物や書物を検討する義務を負わせ、実行状況を点検し、文書による評価を要求し、あらゆる非共産主義出版物を遅滞なくモスクワに送らせること。

一連の共産主義文筆家（ステクロフ、オリミンスキー、スクヴォルツォフ、ブハーリンその他）の評価をつけくわえること。

教授や作家たちの政治的経歴、行動、文筆活動について系統的な情報を集めること。

これらすべてを国家保安部のなかの分別があり、教養のある、確実な人物にゆだねること。

ピーテルの二つの出版物についての私の評価——

『ノーヴァヤ・ロシア』第二号**。ピーテルの同志たちによって閉鎖された。

閉鎖は早すぎはしなかったか？ 同紙を政治局員にくぼって、慎重に討議しなければならない。この編集者のレジネフとはだれか？

『デーニ』のか？ 彼について情報を集められないか？ もちろんこの雑誌の寄稿者全部が国外追放の候補者なのではない*³。

ピーテルの雑誌、ロシア技術協会第 11 課発行の『エコノミスト*⁴』は別問題だ。これは、私の意見では、明白な白衛派の中心である。第三号の（第三号だけ!!! これに nota bene !）表紙には寄稿者の名簿が掲載されている。これはほとんど全部が国外追放のもつとも正当な候補者であると、私は考える。

これはすべて明白な反革命家で、協商国の共犯者で、協商国の従僕やスパイや学生青年を墮落させている連中の組織である。これらの「軍事スパイ」をつかまえ、たえず系統的に証拠をにぎり、国外に追放するように処置しなければならない。

これの写しをとらずに、あなたと私に返すことにして政治局員にこっそり見せ、彼らの意見とあなたの判断とを知らせてくださるようお願いする。

五月十九日 レーニン

事項訳注 P919

* 反ソ的なインテリゲンツィアを国外へ追放する準備に関連して書かれたもの。

** 『ノーヴァヤ・ロシア』（『新ロシア』）——道標転換派風の月刊の社会＝文学・科学雑誌。1922 - 1926 年にイ・ゲ・レジネフの編集で発行されていた。最初の二号はペトログラードで 1922 年 3 月と 6 月に出了。のち 1922 年 8 月から、同誌はモスクワで『ロシア』という名称で出していた。

党政治局は 1922 年 5 月 26 日、レーニンの提案で『ノーヴァヤ・ロシア』の問題を審議し、同誌の閉鎖についてのペトログラード執行委員会の決定を取消し、同誌の今後の発行を許可するよう、出版事業総管理局に委任した。

*3『デーニ』（『毎日』）——日刊のブルジョアの文学新聞。1912年からペテルブルグで発行されていた。同紙には解党派メンシェヴィキが参加していたが、1917年の二月革命後、同紙は完全に彼らの手に帰した。1917年10月26日（11月8日）、ペトログラード軍事革命委員会によって閉鎖された。

*4『エコノミスト』（『経済家』）——ロシア技術協会工業経済部の雑誌。この協会には、ソヴェト権力に敵意をもつブルジョアの技術的インテリゲンツィアと企業の旧所有者がはいていた。1921年12月からペトログラードで発行されていた。レーニンは、この雑誌を「現代の農奴制支持者の機関誌」とよんでいる（本全集、第33巻、227—237ページ）。1922年6月に閉鎖された。

第45巻 P721 — 723 『エフ・エ・ジェルジンスキーへ』

1922年5月19日に執筆

1965年に『レーニン全集』第五版、第54巻にはじめて発表

手稿によって印刷